施策評価シート（ 令和３年度　実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる

施策評価（施策主管部長）

施策	地域で支えあう体制の構築	評価者	健康福祉部長
施策内容	人口減少・少子高齢化の進展により、地域本来の支えあい機能が薄れる中、社会的弱者となりうる高齢者や障がい者が健やかに地域で自立した生活を送れるよう、多世代がかかわることで、地域で支えあう体制を構築します。		

主な事業

	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明
1	地域介護予防活動支援事業	適当	有効とは言えない	コロナ禍により、地域の通いの場が予定どおり実施できなかった。
2	生活支援体制整備事業	適当	有効だった	協議体において担い手の課題など話し合いが進んだ。
3	認知症総合支援事業	適当	有効だった	認知症サポーター養成講座を中学生や町職員に拡大実施した。
4	在宅障がい者援護事業	良好	有効とは言えない	コロナ禍により、手話講習会を縮小して実施した。

重要業績評価指標（KPI）①

指標名	地域の通いの場の参加者　（人）				
	基準値	R2	R3	R4	達成状況
計画	13,617 (7,000) ※（ ）はコロナ想定	3,500	5,000	7,500	B
実績		2,253	4,033	－	
分析	コロナ禍により地域の通いの場の中止となった時期があり、計画値を下回っている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

重要業績評価指標（KPI）②

指標名	65歳以上の要介護認定者の割合				
	基準値	R2	R3	R4	達成状況
計画	17.6	16.0	16.1	16.7	B
実績		16.7	17.1	－	
分析	計画値を上回っているが、基準値（県の値）よりは低い状況を維持している。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

重要業績評価指標（KPI）③

指標名	認知症サポーター養成講座受講者数　（人）				
	基準値	R2	R3	R4	達成状況
計画	109	30	200	200	A
実績		35	552	－	
分析	認知症サポーター養成講座の拡大実施により、計画値を大きく上回っている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

重要業績評価指標（KPI）④

指標名	手話通訳者養成講習会の参加者数　（人）				
	基準値	R2	R3	R4	達成状況
計画	22(10) ※（ ）はコロナ想定	16	18	20	D
実績		コロナに伴い中止	7		
分析	コロナ禍により手話通訳者養成講習会を縮小して実施したため、計画値を下回っている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

達成状況：A　達成（100%以上）、B　概ね達成（70%以上）、C　充分とは言えない（50%以上）、D　未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・認知症サポーター養成講座を中学生や役場職員等にも拡大実施し認知症への理解を進めるとともに、福祉有償運送運転者講習の開催など担い手の育成に取り組んだ。 ・地域の通いの場はコロナの感染状況をみて短時間や屋外開催など工夫して開催した。			
	課題	①高齢化が進む中で見守りや支援について更に検討が必要である ②地域で支え合うための担い手が不足してきている。			
	改善点（課題番号に対応）	①シルバー緊急通報システムの改善など、見守り体制の強化を進める。 ②地域包括ケア推進に向け、講座や啓発等を通して担い手の確保、育成を図る。			
	評価	☐	地方創生に非常に効果的であった	☐	地方創生に相当程度効果があった
		☑	地方創生に効果があった	☐	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	☐	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	☑	施策実現に向け順調であるため継続実施
	☐	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	●すべてを行政が行うということではなく、これまで地域で行ってきた伝統や慣習による相互扶助をあらためて見直し、地域が活動主体となりつつ、行政はそのような地域活動の提案や支援をするなど、更なる活用の可能性を探っていく必要がある。また、コロナ禍で制限されている活動については、制限が無くなった際に円滑に再開されるようにすることが肝心である。 ●手話通訳に関して、大人に対する理解のための働きかけはもちろんだが、小中学校での授業に取り入れたり部活動を創設したりするなど、若い世代が触れる環境を整え、伝えていくことが必要である。 ●認知症ケア（改善ツール）としての対面会話AIや手話通訳をサポートするアプリなど、福祉的な補助機能を持ったICT技術を、ICT戦略の一環として導入することも考えられるのではないか。 ●地域の通いの場や講習会の参加者は計画値を下回っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響を考えれば理解できる範囲である。今後は、地域包括ケアシステムの構築に関連する町民向け調査の結果も踏まえ、施策を進めて行く必要がある。			

今後の方針　（二宮町総合戦略推進本部）

	予算等事業名		行政評価の方向性	総合戦略	
				方向性	特記事項
各事業の今後の方向性	1	地域介護予防活動支援事業 （担当課：高齢介護課）	要改善	見直し	・地域の通いの場の参加人数は改善してきたものの、コロナ禍によるフレイル予防等のため、引き続き広報による啓発や支援方法の検討を進める。
	2	生活支援体制整備事業 （担当課：高齢介護課）	現状維持	継続推進	・地域包括ケアの推進のため、情報発信の強化や育成環境の整備による地域福祉の担い手不足解消に努める。
	3	認知症総合支援事業 （担当課：高齢介護課）	現状維持	継続推進	・認知症予防を推進するとともに、認知症サポーターの養成講座の開催等、認知症への理解促進を図る。
	4	在宅障がい者援護事業 （担当課：福祉保険課）	現状維持	継続推進	－